

チャイナ・プラス・ワン最有望国の導出と そのスタイルの新出

絵所ゼミ

*岩館有紀

高橋勇貴

富永健太

私たちは、近頃活発化している日系企業の投資戦略「チャイナ・プラス・ワン」について分析をした。今後プラスワンとなる最適国はどこなのか提示し、また、その体系についても考案する。

チャイナ・プラス・ワンとは？ = 中国以外に一貫工程を設ける企業動向

- ・ 中国リスク
- ・ 日系企業は有望事業展開先国として中国を挙げていたが、近年は中国の隣国を有望だとする企業が出現
- ・ リスク分散先としてはタイ、ベトナムが有望

最適国はどこ？ タイ vs. ベトナム

- ・ 有望国とされているタイには、既に多くの企業が進出し、完全雇用に近い工場労働力が払底（タイ・プラス・ワン）
- ・ チャイナ・プラス・ワン最有望国はベトナム

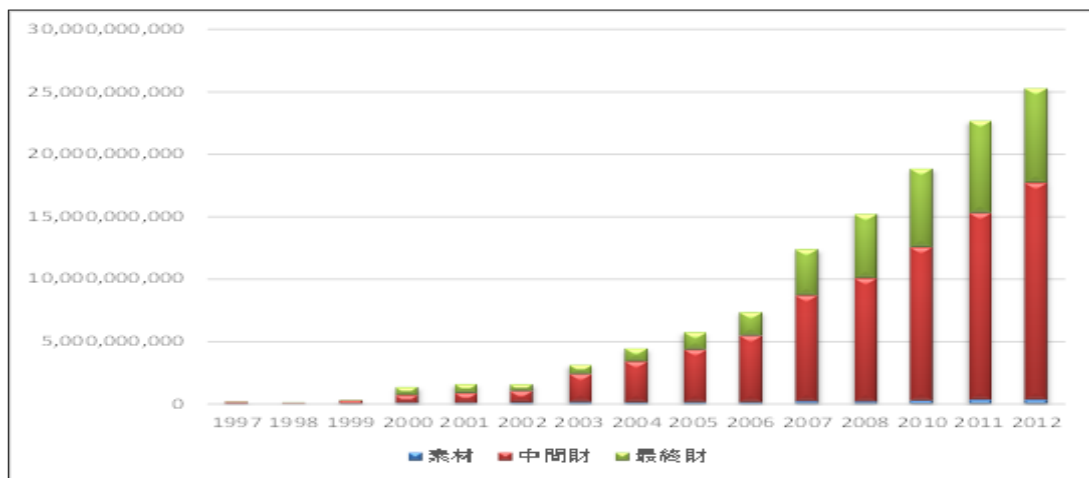
チャイナ・プラス・ワンとしてのベトナムのスタイル

- ・ 中国と輸出結合度指数が高い ASEAN の国は、カンボジア、ミャンマー、ベトナム、ブルネイ、フィリピン

〈輸出結合度の計算〉

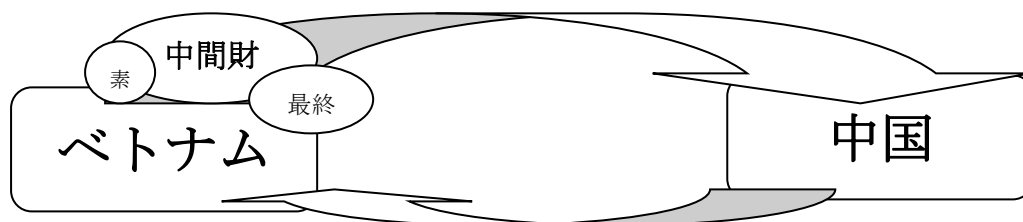
$$\text{中国の}\alpha\text{国に対する輸出結合度} = \frac{\frac{\text{中国の}\alpha\text{国向け輸出額}}{\text{中国の輸出総額}}}{\frac{\text{東アジアの}\alpha\text{国向け輸出額}}{\text{東アジアの輸出総額}}}$$

- ・ベトナムは中国に中間財を多く輸出している



【結論】

- ・チャイナ・プラス・ワンの最有望国はベトナムである。
- ・特に労働集約的産業をベトナムで行い、中間財を中国に輸出する工程間分業の新しいチャイナ・プラス・ワンのスタイルが展開されていくはずだ。



〔主な参考文献〕

- ・ Ryo Ikebe (2013a) 『The international division of labor and in East Asia』
- ・ Keichiro Oizumi (2013b) 『Consider possibility of “Thailand+ plus-one” -New inter-process division of labor in East Asia-』 Institute of social science , University of Tokyo